



(講演する森山氏)

## 三井住友海上

## 「データヘルス計画」実践へ

## 企業人事・健保向けセミナーを共催

三井住友海上と㈱DPPヘルスパートナーズは12月4日、企業人事・健保向けセミナー「データヘルス計画」実践に向けたコラボ

ヘルスと重症化予防策「計画」から実践へ 事例を交えて」を東京・神田駿河台の三井住友海上駿河台新館で開催し、健保組合等、約80名が参加した。

セミナーは2部構成で行い、第1部は、DPPヘルスパートナーズの森山美知子取締役会長が講師を務め「ヘルスデータの分析方法

と慢性疾患重症化予防の理論および実践例」をテーマに講演した。

森山氏は、データヘルス計画について、「健康保険法の指針の改定により、すべての健保組合にレセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康増進のための事業計画として、データヘルスの作成、公表、実施、評価等の取り組みが求められる、市町村国保にも同様の取り組みを推進することが盛り込まれた」と語り、加えて「糖尿病、成人病患者の人工透析導入を予防する重症化予防事業の好事例について、年度内に横展開を開始できるように検討開始することとされており、26年度中にすべての健保組合が計画を立てることが求められている」と説明した。同氏は、レセプトや健診データの分析について

例示すると共に、重症化の予防について紹介した。

データヘルスにおいて、国が保険者に求めているのは、ジェネリックの使用促進、受診勧奨、重症化予防、重複受診・頻回受診対策、調剤点検等と述べ、同氏は「2割の患者が8割の医療費を使用している。これは世界中同じ。この2割を捉えて対処していけば医療費はかなり削減できる」と言及した。

また、厚生労働省が勧めている疾病管理については「自己管理の努力が必要とされる患者集団のために作られたヘルスケアにおける介入・コミュニケーションのシステム。医師と患者との関係や医療計画をサポートするエビデンスに基づく診療ガイドライン、患者を主体とする医療の戦略により、症状悪化・合併症の防止に重点を置く。総合的な健康改善を目標として、臨床的、人的、経済的アウトカムを評価する」との定義

を紹介した。

疾病管理のプロセスとしては、①患者特性による分類、②ハイリスク／ハイコスト者の特定、③患者への教育や主治医のガイドライン遵守、④ガイドラインの使用について主治医への働きかけ、⑤評価とフィードバックの手順を説明した。

第2部は、㈱フジクラ・コーポレート企画室ヘルスケア・ソリューショングループの浅野健一郎リーダーが「レセプトや健診データ等を活用したポピュレーション・ヘルスマネジメント」と題して、同社の取り組み施策を解説した。

同氏は、フジクラの健康推進体制について「社内の既存の枠組みである労働安全衛生、産業保健スタッフ等とは別に、健保組合を始め、社内外のステークホルダーと健康維持・増進専門のコラボレーション環境を整備して活動の一元化・効率化に取り組んでいる」とし、分析例では健診データ

と医療費分析を紹介した。予防への取り組みでは、リスク階層に応じた施策として①高リスク層Ⅱリスク症病に応じた重症化予防プログラム、②中リスク層Ⅱキャンペーンコール・情報提供、保健指導、③低リスク層Ⅱ受診勧奨・精密検査、節酒・禁煙等キャンペーンプログラム、④健康層Ⅱ健康増進プログラム、歩行ラリー等イベントの開催等の健康支援策を実施している。

保険業界に専門特化した  
エグゼクティブ・サーチ&転職エージェント

株式会社 保険キャリア

<http://www.hokencareer.com>

東京都新宿区四谷1-8-14 四谷一丁目ビル

TEL : 03-5367-1140

E-mail : [info@hokencareer.com](mailto:info@hokencareer.com)